

## 2017年度森基金成果報告書

### 医療費適正化と官僚制—組織学習がもたらす政策形成と非形成

政策・メディア研究科  
後期博士課程  
三谷宗一郎

#### 1. 背景と目的

1980年代初頭において、放漫な福祉拡充路線に終止符を打ち、抜本的な改革案を構想して、現在まで続く強力な医療費適正化政策を実現させたのは厚生官僚だった。なぜ彼らは短期間のうちに改革案を構想できたのか。なぜいくつかの政策課題に対して改革案を構想しなかったのか。この二つの問いに対し、厚生省内部の組織学習に着目し、説明を提示することが本研究の目的である。

#### 2. 手法

非公表のものを含む史資料調査とインタビュー調査を実施し、医療政策の形成・非形成過程を辿る。同時に、既存の政治学・行政学理論の限界を指摘し、経営学の組織学習論を援用した分析枠組を構築する。新史料に基づく政策形成・非形成過程について、新たに構築した分析枠組でどの程度説明できるか、既存理論よりも説明力があるか否か検討する。

#### 3. 結果

史資料調査やインタビューによって得られた新史料に依拠し、これまで見逃されてきた医療政策史について一定程度明らかにした。また既存理論の限界と可能性を指摘した上で、2000年以後の組織学習論を援用し、政治学の政策学習論と統合させた分析枠組を構築した。新たに構築した分析枠組は、既存理論では説明することが難しかった、①組織内部のどこに組織知が保有されるのか、②保有された組織知はどのように利用されるのか、という問いに対して、従来よりも説得力のある説明を提示できたと考える。

#### 4. 考察

本研究の結果、政策非形成をもたらす組織学習メカニズムの存在が明らかになった。このことは厚生省（現厚生労働省）では、過去の検討蓄積という組織の貴重なリソースが十分に活用されていない可能性を示唆している。2000年以後、中央省庁において抜本的な改革案を創出するバッファが減少する中で、政策非形成をいかに回避するための組織学習の強化が重要であると考えられる。詳しくは、2018年度中に提出予定の筆者の博士論文を参照されたい。

#### 5. 謝辞

政策・メディア研究科進学以来、貴基金に多大なご支援を賜った。心より感謝申し上げます。